

親鸞聖人いまさずは


 布教使
 にしはら ゆうじ
 西原 祐治

「自分への手紙」

お釈迦さまの誕生を「降誕」といいます。これにならって、親鸞さまのご誕生を祝う法要を「降誕会」といいます。以前、「誕生」という言葉を辞書で引いてみました。すると、「人の生まれること」とありました。動物ではなく人の生まれることでした。そこで「誕」をまた辞書で調べると、「いつわること、でたらめ」とありました。この時、「有り難い！」と思いました。つまり、お釈迦さまの降誕は、「ウソ、偽り

の中にわが身を降ろす」ということなのです。それはひとえに、この私たちを救うためにご苦労されたということでありましょう。

親鸞さまのお誕生日に「降誕会」をおつとめするのも、ウソ、偽りに満ちたこの私たちに、救いの道をお示しくくださったからでありましょう。そのご生涯は、幼き日のご両親との離別、比叡山での20年間のご苦労、越後へのご流罪、関東での伝道などなど、ご苦労多き中に、真実のみ教えを見極め、私たちにお伝えくださいました。まさに「降誕」のご生涯でした。

今、私たちは日頃、当たり前のように浄土真宗のみ教えに触れることができます。しかし、その私の当たり前の中に、聖人をはじめ、先人の方々のご苦労があったのです。

10年前のことです。ある講習会の講義で「自分への手紙」という内容の実習をしたことがあります。「自分への手紙」とは、「自分の命があと2週間しかない。そう思って、自分へ手紙を書く」というものです。その時、私も一緒に次のように書きました。

「わがまま一杯の生涯でしたね。多くの人に迷惑をかけたことでしょう。でもその中で、親鸞聖人に出遇えてよかったですね。多くの方のお説教で聞いてきたとおり、得難い人生でした。(中略) 悲しければ、泣いていいのですよ。悔しければ怒っていいのですよ。しがみつきたければしがみついているのですよ。その一息一息の上に阿弥陀さまは一緒にくださっているのですから。」

これからの2週間、泣いて暮らしてもいいのですよ。今までどおり、わがまま一杯で過ごしてもいいのですよ。あなたがあなたであることを大事にしてください。今、手紙を書いている私も、一緒にあなたと共に過ごします。

でも本当によかったですね。今、あなたは思っていることでしょう。一昨年、若手布教使の研修会で『あなたにとって親鸞さまは、どういふ方ですか』と問われて、答えられないことがありましたね。今は、その親鸞さまに出遇えて本当によかったと思っていることでしょう。私もそのことを喜べるあなたであったことを祝福します」

親鸞聖人が浄土真宗をあきらかにされて80年、あまたの人たちが聖人の導きにより阿弥陀さまの願いに触れ、南無阿弥陀仏のお念仏の中に生き、そしてご往生されていったことでしょう。これひとえに「親鸞聖人ご出世のご恩」です。